

2023年8月4日 高校と地域の連携強化戦略会議 議事録

政策企画課

日時：2023年8月4日（金）10時から11時30分

場所：市民文化センター 301号室

出席者：上水流委員長、木村委員、中間委員、牛来委員、佐田尾委員、本田委員、高下委員
和田委員、大里委員、桑田委員

作成者：坂本

事務局

本日は暑い中、そしてお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。議事までの進行をさせていただきます。事務局の佐々木です。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、始めに上水流委員長よりご挨拶をいただきたいと思っております。

上水流委員長

皆様おはようございます。本当に暑い中お集まりいただきありがとうございます。

今日までのところで、中学校と高校の連携が具体的に進んでいるところもありますし、「変わる向原高校」では皆様にご検討いただいております、ちょっとずつ形になってきているのかなと思っております。今日の会議では、短期的なことについて決めた後、今後どういう風にしていくのかという長期的な視点、何ができるかを含めて議論できればと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございました。本日の会議ですが、福岡委員・永井委員が欠席されるということでご連絡いただいております。本日の会議時間は1時間30分とし、11時30分には終了させていただきたいという風に思っております。

続きまして資料の確認です。本会議の次第、資料1委員の名簿、資料2短期の取り組みのフォロー、資料3中長期の内容の確認、資料4指標の協議、最後に前回の会議の議事録となっております。

それでは、早速でございますがこれから議事の方に入ります。委員長よろしく願いいたします。

上水流委員長

それでは(1)短期の取り組みのフォローに関しまして、まず吉田高校及び向原高校からそれぞれの項目に従って5分程度説明をお願いします。

木村委員

オープンスクールですが、皆様に資料を配布しています。9月2日の午後にオープンスクールを予定しております。今のところ2回目の参加予定が27人と昨年度よりは減ってきております。安芸高田市外からの参加者も増えてほしい40人くらいは参加となっております。内容としては、授業体験・部活動見学で、授業については各教科あるいは総合的な探求の時間でどの授業を受けたいか事前にアンケートを取っております。部活動においても事前にアンケートを取っています。本日来ていただいている中学校の校長先生には大変お世話になっております。参加者も増えております。

続いて3つ目の情報発信ですが、吉田高校としてはお配りした資料にもあります安芸高田市のイベント「入城500年イベント」に吉田高校の地域創生ゼミが今回の企画を持ち込みました。これは、市民企画事業で事業計画書などを実際に生徒が作成して応募し、採用いただいたということでこのInstagramを活用したフォトグランプリを開催します。生徒が考えたことですので、実際煮詰めが甘いところもあるので、どれくらい集まるのかというところで不安もありますが、まずはやってみるということで生徒はかなりやる気になっております。

2つ目は、安芸高田市給食センターとの連携です。アグリビジネス科が11月にチンゲン菜を給食センターに提供することが決まっております。各小中学校に提供され、これからメニューも考えることとなります。給食センターから何か広報みたいなことをしたいと言われており、栽培している写真を提供してくださいと連絡がありました。吉田高校もそれに合わせて何かしら広報をしていきたいと思っています。提供するチンゲン菜が児童1人1人に届く物ですのでやっていこうと思います。また神楽甲子園のマスコミの発信について、中国新聞の記事をお渡ししております。神楽部のことでは、部長の活躍もあり、市にも非常にお世話になり成功となりました。RCCのテレビ放送もありましたし、実は現在TSSから特集を組みたいと取材依頼が来ておりまして、放送日等未定ですが対応したいと思っております。

中高連携では、まず部活動の合同練習については吉田中学校の顧問の先生方とも連携させていただき、卓球部・バスケットボール部女子についてはそれぞれ2回ずつ合同練習をすることで決まっております。バスケットボール部男子とテニス部については、日程を協議中ということでした。教員同士の交流では、吉田中の生徒指導の先生と7月21日に既に交流しており、少し話が盛り上がりまして生徒指導以外の所で1度やりましょうという話になりました。次は8月9日にメンバーを変えて、中学校の先生7名、高校の先生7、8名で進路の先生を入れてやろうということになっております。報告できるところでは以上となります。

上水流委員長

ありがとうございます。続いて向原高校よろしく願いいたします。

中間委員

いつもお世話になっております。この会議でいろんなご意見を頂いております。なかなか成果として出てくるものというのは、短期では難しいですがまずはオープンスクールです。8月2日に1回目を行っております。8中学校の生徒30名が参加予定でしたが、当日欠席者もいて生徒27名、保護者8名、教員1名の参加がございました。学校説明の他に、授業を実際に受けてもらい、本校が進めている地域と共同しながら課題解決を図るという部分も体感してもらいましたが、思いのほか評判だったかなと思っております。アンケートを事後に取りましたが、27名中19名は「入学を考えている」或いは「少し考えている」という、社交辞令的な意味合いも含まれているものだという風に思いますが、アンケートに記載いただきました。2回目の9月30日は部活動体験をメインに据えて実施していく予定としております。

続いて2番目の項目です。いろいろこの会議で英語塾や英会話を進めていってはどうかと思いをいただきながら、或いは地元と話をしながら下宿を確保していきたいというのがメインの思いなんです。その下宿が単なる生活の場に留まらず異文化外国人との交流が出来て、安芸高田市や国際交流協会との連携を通じて下宿文化・地域貢献これが一体となった1つの事業として、その中の下宿というのを打ち出して募集していこうと今検討を進めております。下宿をする中で、当然学力補充または生活指導というものが当然必要になってきますが、その中で英会話教室のようなもの或いは公営塾など生徒への支援も考えており、関係機関と連携をしております。

情報発信については、これまでの取り組みを継続していくということ、あわせてホームページのリニューアル、これ3月から話を進めていますがなかなか相手業者のこともあって進んでおりませんが、9月中に完了予定というところで今相手方の業者と確認をしております。少しでも見栄えの良い物、目を引く物というかそういった形にして情報発信進めていきたいというふうに考えております。

中高連携についてですが向原中の桑田校長先生ともお話をさせていただきながら、卓球部が合同練習できるかなというところでその方向で進めております。お互い部活動の数っていうのは多くございませんし、生徒数・部員数というのも多くございませんので、いろんな複数の部活動でというのはなかなか難しい現実があるんですが、卓球部ならちょっとできそうかというところで進めて参ります。それと教員同士の交流ですが、お互いがお互いの学校を知ることによって教員の行き来、

とりわけ授業を始めとする教育活動を見るというようなどころも進めていけるように、今両校で調整をしております。お互いで授業ができる、中学校の先生が高校で授業をする・高校の先生が中学校で授業をする、というようなそういった交流ができれば面白いなということで教頭と話をしながら、具体化に向けて学校同士で話をしているところです。

市外からの生徒確保です。三次・安芸高田市・広島市安佐北区・東区戸坂の中学校 20 校に学校訪問させていただき、現時点で向原高校を希望している生徒が何人いますかというところを確認いたしました。そうすると今のところ 14 名。あまりにも少ない数字ではあるんですが、とりわけ地元ということになると、なかなか多くなくて全部で 4 人とそのくらいに留まっています。そうすると、本校が生徒数を集めて確保していこうと思えば、地元から集めるというのがもちろん大原則というか、そこは決して忘れてはないんですが、いかに外から集めてくるかっていうところが、必要になってくるという風に考えて、先ほど言いました下宿や地域貢献を絡めた一体化した取組を展開していけるところが確保に向けて大事なところだと考えています。安芸高田市・同窓会・地域の方・下宿先そして高校が立ち上げの会を開き具体化に向けて取り組んでいくようにしています。またハンドボールもメインに据えて下宿することによりハンドボールの生徒を集めたいところもあり、とりわけ強い呉市立の 2 つの中学校に下宿のことを紹介しながら生徒募集も行っております。以上です。

上水流委員長

ありがとうございます。それから安芸高田市教育委員会から中学 3 年生の進路アンケートの結果について和田委員のほうから情報提供をお願いします。

和田委員

1 学期末に懇談をしますので、その時に生徒が進路希望を出すのでそれを集約しました。集約した結果ですが、6 月末時点でまず 3 年生の生徒数は 207 人です。そのうち、吉田高校の探求課を希望している生徒が 46 人。アグリビジネス科を希望しているのが 4 人、向原高校の普通科を希望しているのが 4 人現状であります。以上でございます。

上水流委員長

ありがとうございました。以上でまず一旦この資料に関する説明は、このような形だと思いますけれども、ここから少しですねご質問も含めていろいろ協議ができればと思っております。委員の皆様からもう少しこの辺の話をして欲しいとか、ここはどうだろうってことがありましたらご意見頂戴したいのですがいかがでしょうか。ちょっと私の方からデータのところで、質問させていただきたいんですけど、オープンスクールと先ほどの進路希望調査ということなんですが、まず今 207 人中という数字を出していただきましたけれども、これに関しては例年に比べてどうなのかという数字だけ聞くと割とショッキングなんですけど、例年に比べてどういう傾向にあるのかということも 1 つ教えていただきたいということと、それから木村校長の方にはですね先ほど紙面の方でもいただいたんですけども、2 回目の参加者数が今年度少ないんだなっていうことにこの数字を見ると思いますが何かそれは理由があるのかなということについてお伺いしたいことと、中間校長先生の方に伺いたいのは今回来られた方が 27 名・保護者が 8 名・教諭職員が 1 名というのは、昨年度と比べるとどういう形なのかってちょっと比較をですね教えていただければと思いました。

和田委員

昨年度の 3 年生が 189 人。そのうち、吉田高校探求科を 6 月末時点で希望していた生徒数は 41 名。アグリビジネス科は 8 人。向原高校普通科が 2 名ということでした。

木村委員

オープンスクールの参加状況ですけれども、1 回目の所で中学校から出していただいています、日程のところでも 1 回目 2 回目両方来てもらうのはなかなか難しいのかなと思っています。もちろん

この数字で十分と思っておりますし危機感を持っております。

中間委員

昨年度は8月4日にオープンスクールでしたが中学生が18名でした。教員は0名です。保護者は何人か分からないんですが、昨年よりは来ていただいているありがたいと思っております。

上水流委員長

ありがとうございます。今高校側から情報をいただきましたが、中学校の校長先生からちょっとこういう状況について、もしプラスアルファあればご説明をお願いします。

大里委員

今年度の中学校でいえば、積極的にオープンスクールに参加する子は増えました。生徒に呼びかけており少しでも吉田高校に興味がある、可能性がある子は全員行っていると思います。複数回は本当に数人で、1回目行けなかった生徒が2回目に行くというのが主な状況です。

桑田委員

吉田高校のオープンスクールに行った生徒は昨年と同じくらい、向原高校に関しては昨年度もうちょっと少なかったかなという風に思います。全校に呼び掛けておりますので、3年生が1名、2年生が5名、1年生が4名くらい。昨年は教職員だけで今回進路指導主事を行かせましたが、なかなか興味深い内容だったということで、これを向原中学校の生徒に紹介するような場あればいいなど。そういった意味でもやっぱり職員が、「向原高校を知った方がいいと思います」という感想を持って帰ってきましたので、次に繋がることだったと思います。9月以降に職員の交流により向原高校の取り組みを中学校に持って帰って生徒に話をすることで今年度すぐに繋がるか別として来年度以降に繋がっていく可能性があると感じました。

上水流委員長

ありがとうございます。今の数字が伸びているのは両校の地道な努力のたまものだと思っております。ただ今伺っていますとやっぱり中学校と高校が何らかの形でこういう交流していくことで高校側がメリットになる部分もあると思いますのでその取り組みを徐々にどんどん拡充していただければいいながら聞いておりました。ちょっと他にもあるんですが皆様の方からちょっとご意見ご質問があればいかがでしょうか。

牛来委員

新規の中学校からの生徒確保ということで下宿を用意するということの詳細をお聞きしたいと思いました。また下宿という表現の仕方をしていきますが昔ながらの下宿というイメージなのかどんなイメージなのでしょう。せっかく肝となる企画をしていくとなれば、やっぱり市外に向けた発信のところで、例えば同じ下宿や寮という表現にするよりはあえて古民家一棟貸の寮とかシェアハウスという表現もいいかもしれないし、今時のイメージをつけながらも今までなかったよねというようなものができたら面白いと思いました。

中間委員

まだ確定じゃないので、ポシャってしまうかもしれません。まず、生徒募集に対して外へ打ち出していくために、異文化交流を体験しながら迎える方法で学びませんかという打ち出しがしたいと思っております。その具体は何かというと、向原町内で外国人とかハーフの方を受け入れて就労支援をされておられる、技能実習生の形で受け入れておられる家庭がございます。そこに下宿をさせてもらい、土日祝日すなわち学校が休みの日にはそこで暮らしている外国人の方との交流、或いはその家庭で行っておられる農業を体験する。それだけだったらやっぱり長続きしないと思うの

で、市を巻き込みたい。市を巻き込むというのは、安芸高田市の催しに参加、生徒が企画をする或いは安芸高田市国際交流協会主催の日本語教室に講師として生徒が参加をする、また安芸高田市国際交流協会の留学生と交流をしていく、そういったことをしながら向原高校に行きませんかという打ち出しがしたいと思っております。先ほどから言いますように学校と下宿先だけの取り組みであれば、公立学校なので人が変わっていきますので、長続きしませんので1つ市を巻き込んだ1つの大きな事業として進めていきたい。目的は入学者の増加ですけれども、学校と地域と行政が一体となって生徒の力をつける或いは地域の活性化に繋がるっていう1つのモデルとして、発信をしたいと考えています。このことによって安芸高田市が抱えている、例えば向原町は高齢化が進んでおりますので地域の活性化や、たくさんある空き家問題では下宿を拡大していくことによって、空き家問題を少しでも解決の一助にならないか、或いは安芸高田市が進める多文化共生っていうそういった活動をより若いものが入って進めていけるような推進の原動力にならないかという、市を巻き込んだものを目指したいと思っております。こういった取り組みを通じてこの下宿生だけが良い思いをするのかというところではなくて、下宿生が向原高校に来ることで留学生等も来るきっかけにもなり、異文化との交流ができる或いは生徒数が増えて行けば共同的な学びもさらに活性化してくると思いますので、本校の授業の質的向上に繋がってくると期待できると思います。また中学生が1番頭に描いている部活動にも生徒数が増えれば活性化に繋がっていくだろうと思いますので協議をしております。ただし、これには非常にお金がかかります。多くの県立学校では広島県が下宿・寮を設置して生徒を集めていますが、それら全ては市から補助金が出ています。1ヵ月あたりの生活費6万円の約半分は市等から出ていますので、実質保護者の負担が3万円くらいです。そういった部分で市へのお願いとして話はしておりますが、市長の決裁が必要だと思いますので引き続き協議が必要だと思います。安芸高田市・安芸高田市国際交流協会と活動していくときの詳細のプログラムも必要ですし、運営委員会の立ち上げも必要だと思います。まだまだ課題が山積みの取組ですので、ポシャってしまう可能性もありますが、進めていきたいと思っております。

下宿という言い方ですが、ちょっと下宿というのが楽なので下宿しておりますけれども、今下宿を受け入れてくださる方の話の中でシェアハウス或いは古民家も空き家もたくさん見させていただきましても、本当に良い空き家があって、そこに生徒がシェアハウスのように、数名の生徒が生活していくっていうようなイメージを持っております。ただ生活指導とかどうするかという大きな問題はございますが、下宿というよりシェアハウスみたいなそういった呼びかけをしていきたいと思っております。

高下委員

今現在下宿という方向で考えておられるという話までしか聞いていません。かなり具体的にイメージをお聞かせいただいたようなところなのでもう少し、協議に入らせていただきたいと思います。石丸市長には、「変わる向原高校」で1本立てようとしているという会議での方向性については共有をしています。その中で、向原高校が市に望むことって何かっていうのをしっかり聞いてくれという風なことを言っていますので、今のところでいくとどこまで話が進んできて、どこが一番課題になりそうかというところまず協議をさせていただいて、新年度の予算ですね9月ごろから、どういう玉を上げていこうかという風なことを検討していくのでそこに、早くやらないといけないので、あと載せていけるようになるともう今月からちょっとそのあたり相談させていただきたい。

中間委員

先日行った時に政策企画課の課長さんはじめ戸田さんと資料を用いて話をさせていただいて、その時にはまだ具体化というものがなくて、相談レベルというようなところでのお話だったので、まだ具体的なものは伝わっていないと思っております。

高下委員

でも急いでやりましょう。いや、すごくいいと思います。

木村委員

市の方で、他の市ではこんな例がってというようなそういうリサーチとかはされたんでしょうか。

事務局

中間校長先生と話をする中で、幾らか他校の事例というのは見せていただきましたので、そこら辺は参考にはなるかなと。

木村委員

学校からいろいろ要望もあるんですけども、他の市とかいろいろ今の下宿要請もあるし、例えば学校と地域をつなぐコーディネーターを各学校へ、市の職員の方が入っているところが県内ではあったりしますし、中国5県の校長の会議があったんですけど、島根県とか有名ですけども、そんなにたくさんの方が入っているんですかみたいな話になるくらいでした。

中間委員

他の学校の事例はあるんですけど、なかなか市にお金出してくださいと言にくいというのがあります。県に言うのが筋だろうと。県は絶対難しい。もう1つ、アイデアは出せますがそれを1つの事業として立ち上げる能力やスキル、経験や知識もないのでどうやっていくかというご支援いただければ助かるなと思います。

高下委員

先ほど県立高校なのだという風なことを言われました。それは確かにそうですが、そうは言っても高校が安芸高田市の中で一番上の最高学府なので、そこは市としても非常に重要ということで戦略会議を立ち上げているところがあるので、それはぜひ一緒に考えていくべき町のこととして考えています。

牛来委員

高校から見たらそれは下宿だったり寮だったり、学生のためのという言い方になりますけれども、例えば市から見ると、それは空き家の問題の解決とか定住促進に繋がるっていうことになるのであれば、文科省だけでなく他のところから補助金を持ってくるとかいろんな組み合わせで出来るんじゃないかと思いました。

高下委員

仰る通りです。地方創生系の交付金を取って町のことやっていくところもあるので、今のところが大きなテーマになると思います。

佐田尾委員

さっき島根県の話が出ましたけど、島根県教委のチラシをちょっと入手しました。その中で15校ぐらいリストアップして、県としてプッシュしている形になっています。公立高校に寮がある割合日本一とかそこら辺が一つの安心感に繋がると思います。やっぱり隣県でこれだけの取り組みをしているとかなり苦労しないと、県外募集というのは難しいなという風には思っています。地元の中学校からの希望が少ないって話ですけど、これはよそで聞いた話ですが大朝の新庄高校が相当な生徒募集をしていて、かき集めるみたいな感じ。新庄高校とどう募集していくか打ち明けて話をしている気がしますので、もっと他校を挙げて何が足りないかということ突き詰めていってもいいと思います。

上水流委員長

ありがとうございます。県は数だけ言って何もサポートしないと今言ったように、県としてもサポートできるっていう視点は必要だと思います。今お話いただいたように1つは向原高校に関しまして今ちょっと具体的な事が少し出てきましたので、その協議も進めていただいて校長先生が言ってらっしゃることが形になるような方法でいければ非常に心強い取り組みではないのかなという風に思っております。今新庄高校の話で、インパクトとか距離とかで感じるこことあるんでしょうか。

木村委員

バスを広域に何本か出していますよね。かき集めていますよね。バス代払っているみたいですが、補助も多少あるみたいですが。月3万円くらいバス代かかるそうですが、3万円以上は補助が出るそうですし、バス路線も多く便利ですよね。

上水流委員長

新庄高校とそういう問題でいうとやっぱり「足」という交通機関の話はできてきていますが、今ここでどうかという議論にならないと思いますが、その辺は共通認識を持っていただければと思います。

木村委員

例えばバス路線。これは以前あったと聞いていますが、一旦廃止になっているそうですが。以前あった場所があればまた話が違うとは思いますが。

上水流委員長

市が交通体系を見直しているという話をされていて、そういう中で今の高校の状況も可能ならちゃんと加味していただいて検討していただくって話はここでも何回か話題には出ているというところがあります。先ほど、校長先生の方から市として何か提供できるものとかアイデアもあればひ事業を組み立てていくところで必要ですのでぜひそこをお願いできればと思います。また吉田高校のアグリビジネス科については人数が減ってきているので少し肩入れとか何か考えないといけない状況にあるのかなと感じましたがいかがでしょうか。

木村委員

人数減っていますし、とても感じています。アグリビジネス科ですが、新聞記事にもなっておりますけれども、吉田小学校等と交流・給食センターとの連携もアピールしたいし、さらに今後で言ったらそこに書いておりませんが、ブドウの収穫時期になりますので道の駅のレストランでフルーツサンド等試食の日程まで決まっています。もう1つはそのぶどうの果汁を使ってソフトクリームを作るという話も進めております。昨年の所まででいうと、青春の一滴というぶどうジュースは継続して販売します。昨年度からですけども、ふるさと納税の返礼品として吉田高校のブドウがありますので、インターネットから申し込みができますのでこれからPRしていこうと、マスコミに提供しようかなと思っています。さらに9月28日には学校内でマルシェを開いてみようということで「吉校マルシェ」と。初めてなので、放課後の1時間限定ですけども、アグリビジネス科の物を売ると、道の駅三矢の里あきたかたに出店してもらって幅広い商品を吉田高校の駐車場で販売してもらい、少しでも賑わっていただきたいと思います。でも今回はまだ試しです。1時間ですけども、生徒もまだ慣れていない。どれくらいお客さんが来るかもわからないので、小さなステップから徐々に増やしていければと思います。道の駅の駅長とも話を詰めております。探求科の生徒が出店される企業を回って説明を行い、理解を得て道の駅を通して出店してもらったりPRしていこうと思っています。

牛来委員

すごく情報発信されていると思いますが、全国的に農業の訴求ができないとアグリビジネス科に行きたいという人が増えない。例えばOBの方でこんな人がいるという発信みたいな、要するに卒業生でこんな成功している人たちがいるみたいな人はいますか？

木村委員

現状そういうのはないですね。学校として発信するっていう機会はあまりない。やっぱり今やっている生徒の発信だけしかないです。

牛来委員

結局吉田高校卒業してこんな先輩がいるんだみたいな感じのこと伝えられないですかね。

木村委員

実際にアグリビジネス科を卒業して農業をやっている卒業生の比率はそんなに高くないので、それこそ本多さんとかにも授業に来ていただいてね、生徒に話してもらって活躍されている形はあります。結構外から来られた方が安芸高田市で農業される方がいまして生徒に話をしてもらうことはあります。ただ、外から来られた方を学校としてPRすることはなかなか難しくなります。

上水流委員長

いずれにしても、先ほど言ったように農業として非常に儲かるというか、やっぱり自分の将来設計の中にそういう選択肢が入るように、中学生に見せていくことの重要性だと思いますので、今もちろん学校内でもそうですけど逆に言うと、オープンスクールとかそういう時に中学生に対して、今スマート農業とかも広がっていますし、もちろん卒業生の中で成功されている方がいらっしゃればアピールすることで、ここで学んでこういうようなことやっていけたらいいなという風に考えるきっかけになるかと思いますので今後、アグリビジネスと考えていく上で必要な指摘のかなという風に思ったところです。

木村委員

あとどういう方がおられるかというのと、どういう方法ならそれは許されるか、変に1企業を吉田高校が応援してしまうとまた別の問題になってしまうので、少し難しいところもある。生徒の活躍はもう幾らでも発信できますけども。

上水流委員長

よくあるのは先輩に来ていただいて、自分たちの高校に来てこんなことやっているというのを発信しますよね。

木村委員

それが中学生とかに届かなきゃいけないということですよ。

上水流委員長

本当は中学生とか安芸高田の中で、少なくともそういう広がりを持って行ってアグリビジネス科に行くところこういう風なことができるっていうようなことがですね、浸透すると良いだろうなと思っているところです。

木村委員

ちょっと実例も含めて、幾らか吉田高校にいろんな人を呼んで話をしてもらっている中で、その中に卒業生がいるかもしれない。私が把握できていないところもあるかもしれないので確認してみます。

上水流委員長

ありがとうございます。(2) 中長期の内容確認ということで資料があるかと思えます。これについて事務局からご説明お願いしたいと思えますのでよろしくお願いします。

事務局

資料3の中長期の内容の確認という1枚の資料です。この3本の項目を挙げさせてもらっておりますけれども、6月の会議の際に資料の中に挙げていたものを再掲させてもらっております。これまでの状況も踏まえながら少し説明をそれぞれさせてもらいたいと思えます。

まず1つ目の学力の向上でございます。リクルート社のスタディサプリというものを導入してこうということで挙げさせてもらっておりました。こちら6月の議会で予算化をいたしまして、今両高校の全生徒に活用していただけるような体制が整いました。早い所で言いますと夏休みの課題から、もう活用していただくようにという風に伺っております。今後はそれぞれ生徒の皆さんの抜け漏れを確認していきながらそれを埋めていくものに使っていきつつ、また授業でも活用しさらにはそれぞれの進路に向けた学びの部分をサポートして行って、高校の先生のお役に立てたらということで来年度以降も引き続いて予算化していくように、我々の方としては動いて参りたいと思っております。

続きまして、高校生自身が高校の魅力化を検討というところでございます。もうこの会議の立ち上げの部分あたりから挙げさせてもらっていた内容ですが、これは石丸市長が強く思っておられるところがございます。やっぱり自分たちの高校は自分たちで何か作り出せる部分があると、一気に高校に対する愛着といえましょうか、強い気持ちというのが芽生えていくのではないかとということで、どうだろうかというお話をいただいております。1つは生徒が発案した取り組みを具体化する高校応援プロジェクト補助金の作り込みみたいなところも案としてはあるのかなと思っておりますが、既存の補助金の部分とスタディサプリの部分、あとこの高校の部分と具体化に向けたまだまだ打ち合わせが必要かなと思っております。予算は9月からしていく議論でございますけれども、そこに向けてしっかりと話し合いをさせてもらっていただけたらなと今は思っております。併せましてこれをやろうとすると、やはり動く人が必要になってくるところもあるのかなと思っております。学校の先生に新たな負荷をお願いするということも難しいですし、やっぱり授業の中で生徒だけでやるっていうのも当然無理な部分があるのかなと思っております。そうしたさっきも議論がありました人の部分がどのような役割で、どういう肩書きを持って活動をしていくと、これが実際に動いていくのかなあというあたりもセットにして話し合いができたという風に思っております。

3つ目の学校が希望する地域連携の学びのサポートということで、やはり必要に応じて必要な人とセッティングといえましょうか、そうしたリストみたいなものがあつたら非常に助かるよというこれまでお話があったろうと思えます。それを市の方がリストにするということがありますので、そうした作業をこれから進めていきたいと思っております。実際にまたこれも具体の動きっていうことになってくると、やはり誰かがつなぎ役をしないといけませんし実働し始めての動きっていうのは、まず始まってくると思えますので、ここにも人というものがやっぱりいると、いないとでは違いがあるのかなあというところがありました。この人という面でいうと、今年度の予算のところでは、一応政策企画課から希望するということ挙げましたが、まだまだ具体が見え辛いだろうという、詰めが甘いだろうということで一旦落ちましたので、しっかりとまた今年もトライをするような形で予算計上に向けた実態の議論をさせてもらえたらなというところを持っておるところです。以上で、それは説明を終わります。

上水流委員長

ありがとうございます。スタディサプリについては前回の会議でも1年で終わらないようにちゃんと長期的に取り組んでくださってというのを高校から出ていますのでそういう方向でということ、先ほども出ていましたようにこの人材を動かすっていう、動かせる人材を確保するところで、今年度も予算確保に向けて要請をしていくというお話でしたので、ただ具体的に何をしてもらおうのかとかどういようなことになっていくのかっていうようなことをですねちょっと詰めなきゃいけないという状況だという風なお話がありました。こういうことも含めて、吉田高校・向原高校の方で少しこうして欲しいとかこう考えているということがあれば少しご説明をいかがでしょうか。

木村委員

このフォトグラムとか生徒のものを、実際に市に申請して認めていただいといるところで、本当に生徒がやってそれが実って結果多少うまくいかないことも十分あり得るとは思っております。それも含めて、高校生が学校の魅力化というか、市の方にご協力いただいていることは、やろうという機運はありますので、また道の駅さんにも協力していただいています。そういう意味での具体化というのは進めておるつもりではありますが、さらに進めて行くためのアイデアといえますか意見をいただければありがたいです。

中間委員

先ほどもちょっと下宿のことでお話をさせていただきましたけど、本校が今年重点に置いているのは、地域協働と異文化交流です。この2本柱で行きたいというところで、さっきのようなことは考えているんですが、そういったことを今当然やっていますけど、それを外部と繋ぐようないわゆるコーディネーター的な役割の人材みたいなのところのご支援をいただくと以上に助かります。

上水流委員長

このことについて皆様の方からも何かちょっとご意見があれば頂戴したいと思うんですけど。これ今説明があったんですけども、スタディサプリの予算があって高校の方に1校100万円と、それとは別に生徒が発案した取り組みを具体化する補助金をという理解でよろしいですか。

事務局

まだその部分はこれからですが、三本立てにするのか今の高校の魅力とあわせて生徒の発案部分に組んでいくのかっていうのはまた来年度に向けて検討したいと思えます。

上水流委員長

私が思っていること自体はですね、この生徒が発案した取り組みっていうこと自体ですよ。自分たちがなんですけど、自分たちの高校の魅力化をするときに何をしたらいいのかみたいな発想で、アイデアを募れないのかなあと思いました。逆に高校生の側から、自分たちの先輩のPRをするような活動を生徒がアイデアを出してやっていくってことも繋がっていくかもしれませんし、言われたように学びのあり方として、学外講師として呼んで自分たちの学びの質を高めてみたいとか、やっぱり自分たちのやろうとすることが形になっていくことが必要なことかなと思っております。また昨年度ホームページの改修とかに使われましたけども、それをもっと中身とか中学生たちを引きつけるための中身を作っていくために使われると思うんですけども、それとは別に高校生自身が自分たちのやることを形にしていくっていう予算も、あったらいいんじゃないかというふうに思いました。ただ、おっしゃるようにそれを今高校だけで全てやってくださいというのは大変なので、やっぱりそこをうまくコーディネートできるような人材が、必要なんじゃないかなという風に思いました。その辺、両高校いかがでしょうか。

木村委員

授業の魅力化を図るためのゼミもありますし、地域創生ゼミとは別に魅力化について生徒がいろいろアイデアを出すようなグループで、その議論をちょっと述べたこともあったりしますが、なかなかこれが有効じゃないかみたいところはですね、指導する側の先生って言われたらそうかもしれませんが、なかなか生徒に出すように迫っても出てきません。自分たちの高校のアピールということであれば出てきます。

高下委員

どこに向けてっていうのが現実的なのかなっていうのはちょっと心配してまして。例えば生徒会、高校によっても違うんでしょうけど、反応しそうな感じでしょうか。

木村委員

学校行事等で生徒会が進行を任せていますが、生徒会の中で学校の魅力化でどうって動きがあるわけじゃない。逆に部活動で例えば写真部だったり、美術部・書道部こちらの方が使いやすいっていうか、写真部ならインスタとかで写真をどんどん挙げていきたいとかあります。

上水流委員長

例えばその総合学習みたいところで、そういうのを埋め込んで先ほどの魅力化についてお話ができればどうかと。

木村委員

総合的な探求の時間で学校の魅力化について議論してもらいましたが、上手いこと進んでいないですね。

上水流委員長

私自身失敗してもいいと思っていて、こういうことを挙げて費用対効果で高校生がやって成功しましたっていう話じゃなくて、まずはそういう風の実験や遊べる場所ができるってことが大事じゃないかと思っていて、安芸高田市にも考えて欲しいんですけどこれだけ高校生にお金あげたから、こんだけのことだっていうことではなくてまずはいろんな発想でやってみて、失敗の積み重ねの中で次に進んでいくと思って、やっぱり今失敗が許されないような状況っていうのは、好ましくありません。市の政策は成功しないといけないと思いますけど、高校生がやることはたくさん失敗していいんじゃないかと私は思って、その失敗込みでこういうことをやっていくというような感じ。だから校長先生がおっしゃる通り多分今の高校生が考えていることはちょっと拙いと思いますが、その拙いことをやってみて駄目だったみたいな経験ができるのが若い時の良いことじゃないかと思っていて、そういう風に考えてみても良いんじゃないのかなと思いました。先ほど出されたフォトグランプリですけど、おっしゃる通りどのぐらいいるかわかんないんですけど、うまくいかなかったらいかなかったで、やっぱりなぜ失敗したかを考えていくっていうことがやっぱり高校生が一番やるべきことだと思うので、そういう場として考えるかっていうのをやっぱり共有しておかないといけないんじゃないかとは思いますが。先ほど言ったスタディサプリとか100万円出てるお金というのはやっぱりそれはそれで高校側がやっていますので、やっぱり費用対効果のことを考えるとと思いますが、少なくともこの高校生に考えてねっていうのは、それ費用対効果は別でそういう場を遊ぶ場というか、そういうのを提供するんだというくらいの気持ちがないといけないのかなと思っております。だからそういうものとして、やっぱり考えていただいてとにかくトライアンドエラーっていうところがないといけないのかなっていうのはちょっと思います。

本多委員

高校生が独自でやって、先ほど言われたように失敗することは非常に勉強になっていくと思いますし、例えば安芸高田市のアmbasaderがおられると思いますし、また新たにそういった大々的なAmbasaderではなくて、市民の方から誰かこういった方をAmbasaderとして一応選んだ上で、高校と一緒に取り組んでいく。外部的な意見を取り入れながら新しいのを生み出していき、先ほどコーディネーターと違って議論の中では、ちょこちょこ出てきましたがそういった取り組みを1人の負担にしてしまうよりは数人作った上で、定期的に高校とどう関わっていくかっていう方向性も1つの手段かなと思いました。削ることも大事ですし、増やしてもいいと思います。そういったところも新たな展開の視野に入れて進めていけばいいと思います。

上水流委員長

リスト化していくっていう話が出てきまして。なんかそういう中でも中心的にやってくれるような人たちがいればですね。もう1つやっぱりこちらも今出てきたように、例えば事業をまとめたりとかですね、アイデアを作ったりとか高校生が何かするときには何かしら交渉をやってくれたりとか高校側と調整したりとか、都市との間で結びつくっていうような人材は一定程度専従でいてくれたらいいのかなという風に思いました。本多委員がおっしゃったような方がちゃんといらしゃって必要に応じて必要なことをちょっとと言えるような体制、もちろん失敗してもいいんだよって言ったんですけどそこで学べるような人がちゃんとできれば。その外部とのというのは今高校の先生方をお願いするのは大変だと思います。

木村委員

先生方も、担当する教科で指導をやっています。総合的な探求の時間で、例えば音楽の先生が自然科学系のゼミを担当するなど全然専門と違うようなことをすることもありまして、分からないかなかなか進まないというのもあるので、どンドン前に進めてくれる人がいたら学校側からすれば助かります。

中間委員

高校の魅力化とはちょっと違いますが、以前芸備線の活性化の部分で生徒会を中心に他校の生徒を巻き込んで斬新なアイデアを出していくというようなものを考えたりしたんですが、アイデアのレベルが低い。それを指導する教員、私も含めてそういった能力がないので良い方向に導くことができないのでもやもや感があります。

上水流委員長

そこで上手く良い方向に行けるようなちょっと刺激を与えてくれるような、ゲストの講師がいてきちっとコーディネートできる人材がいてっていうとこだと思うんですね。そういう体制を作っていないとそういう方向性や伸びしろができないですね。

本多委員

少し話が変わりますが、芸備線の活性化のところで広島マツダさんが取り組んでおられたかと思っています。そういったところ、情報がないとどうしていいのかわからないっていうところなので、やはり外部からの情報を取り入れてどのように生かしていくか。学校だけっていう形になると、内部的な考え方で主観的なものが見えなくなる可能性もあるので、外部的な意見を1つの提案として受け入れるのは良いと思います。

上水流委員長

本当に高校の先生たちは苦労しながら、自分の専門外のことをやりながらってところがあるので、そこはやっぱりちゃんとサポートしていかないといけないと思います。

牛来委員

今いろんな話を聞いていて具体的な事業や企画、これは何々事業みたいなものが少し見えてくると多分予算化もできるのかなと思いました。例えば高校の魅力化を検討、地域の連携をあえて一緒にして高校生発信による地域活性化事業みたいな感じで、それが100万であるとか300万かは分かりませんが、例えば高校の授業の中で先生がアイデアを掘り起こすのは難しいでしょうから、授業の時間を使うかどうかは別として「私の高校・地域の魅力発信アイデアコンテスト」みたいにして、急にはアイデアが出ないでしょうから、講師を呼んで勉強会・研修会をしてアイデアを出してそこから具体なところを出していくということまでを1つの事業として予算が取れないかなと少し思いました。

上水流委員長

今出たアイデアコンテストということからスタートして、そこから実際に取り組める、そのアイデアを出すこと自体いろいろな人からってことですね。研修しながらやっていかないといけないので、そういう方々を呼ぶお金ってことも含めてだと思えます。

牛来委員

具体的に企画があればやるやらないで済む話だと思いました。今申し上げたような、地域と高校の魅力発信を高校生主導での発案で、それを掘り起こす事業みたいな形の事業名でどうかなと思いました。

事務局

ちょっと本当にぼやっとしていたところがあるというのが本当のところでと思います。昨年の振り返りしていると、そこで牛来委員がおっしゃった通り、より具体的なはっきりとした企画を打ち出して、それに何をやってもらう人がいるんだというようなしっかりとした立て付けがやっぱり必要なんだろうと思いますので、今のお話も1つの方向というか、1つの部門かなと思って聞かしていただいております。

木村委員

高校生による学校の魅力発信・地域の起こしの部分で、昨年度企画が何本か出て道の駅で投票してもらいました。1番になった「吉校マルシェ」を9月27日に実現させようとしています。その総合的な学習の時間で、それぞれグループからさっきおっしゃったように、先生方が指導しながら生徒から意見を吸い上げて、他にもいろいろ案があったらしいんですけども、投票で1番だったマルシェをまずやってみようということで、学校の中だからサイズは小さいんですけども、今はまだ小さい規模でやろうということで始めておるんですが、今後さらに発展させていくとなったら、それこそノウハウが必要だろうしPRも考えています。

上水流委員長

例えば僕が思ったりするのはですね、新たな伝統を作るみたいなこともどうかなと思います。吉田高校の新たな伝統を今から皆さんで作ってみましょう、じゃどんな伝統作りますかみたいな、そこにあるのは自分たちの高校を残して何が良くてどんなことが特徴的でみたいなことを考えて、それをじゃあ具体的にその新たな伝統って何なのかって作っていくっていうような、これも1つのイメージですね。そういうようなことで、自分たちの高校に対する愛着が出るしその愛着そのものが周りに伝わることで入ってきてもらうっていうようなことでその自分のたちの高校の魅力づくり

っていう、まずはいろんな魅力化って言葉があると思うんですけど、今までそれぞれの高校の伝統があると思うんですけど自分たちから、今新しい伝統を作っていくって何かアイデアを出してもらえませんか、じゃそれに対して必要なことがあればきちんと財政的なサポートをですね、やってみますよっていう発想を取っていると思うんですけど。私自身が思っているのは高校自体そのものにどういう風に自分たちで良い学校だと思えるようになってそれを語っていけるかっていう、その材料づくりをやっていくってというのがいるかなと思っています。私のイメージだとそういう感じですか。ということではいろんな意見が出てくるので、安芸高田市の中でも事業化をするときに少し整理していただきながらと思います。

それでは(3)指標の協議ということで、前回の会議でKPIの設定について牛来委員や私から設ければいいのではないかと申し上げたところでした。一方でやはり高校経営というのは校長先生がしっかり考えられるところですので、こちら側でKPI設定するのは失礼な話ではないかと反省をしましたが、この委員会として委員全員で共通する目標を何かしら設定してもいいのかなと思っています。それは単に高校側に頑張っただけというようなKPIではなく、我々がこの委員会として安芸高田市も協力しながらやっていく中で一緒に達成できる目標として、何か作ってもいいのかなと考えていますが、とはいっても高校経営の部分ですので2人の校長先生のお考えを伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

中間委員

戸田さんと話をさせていただきましたが、指標ってというのが学校の教育にはちょっとなじまないのかなあと個人的には思っています。学校の活性化・取り組みの活性化・魅力化ってのは当然学校として進めていきます。目の前の生徒の力をつける、進路募集をしていく、学校生活をより充実させていく、そういった特色づくりは進めてその結果として学校で進めたいものが出てくるという風に思います。目標みたいなものが最初に出ることってというのがちょっとどうなのかなというような気がしています。学校の魅力化、取り組みの魅力化しているようなところで、指標を設けるのであればいいのかなという風に思うんですが、アンケートの1つの項目に対しての指標ってのがどうかというのが正直な思いです。

上水流委員長

取り組みの指標だったら良いということですよ。ありがとうございます。

木村委員

なかなか申し上げにくいですが、高校としてはもちろん魅力化・生徒募集等全力でいろんなことやります。ご意見をいただいて、ただこの会議で取り組みの進捗状況の確認であったり、或いはそのKPIであったりということで「出来るか」という風に迫られる機会が多くなるとやっぱり私達の居心地は悪くなります。責められて、何とか頑張ってますみたいになってしまうとちょっと私ども辛くなっちゃうので、ご協力いただいてご指導いただいているところではありますがそういう気持ちは少しあります。

上水流委員長

わかりました。ありがとうございます。両校長先生から率直な意見をいただきましたが、他の委員からご意見を頂戴できればと思うんですが、いかがでしょうか。

牛来委員

そのように感じられるのであればやらない方が良いと思います。目的が何なのかというのは、達成できる、達成できないからどうのこうのって言うことを言いたかったわけじゃなくて、皆で一生懸命こうやって考えながらどのように成果が出るかなとか、せつかくアンケート取るのであれば数値的な指標があっても良いと思いますし、それが良い方向に行かないのであればやらないほうが

いかなと思います。

上水流委員長

先ほどの中間校長先生が仰っていた「後輩とか弟や妹に勧めたいか」というアンケートの設問に対してのKPIもあっていいのかなと思っておりましたが、それがどういう風が上がってくればそれだけ人が集まってくるかというのが分かるかなと。ただそれは最終的に何人入学するかというところを出てくる数字ですので、今校長先生から伺ったとおりに取り組みの指標であればいいんじゃないかという話もありましたし、委員全員が納得できる指標があるのであれば考えてもいいかなと思います。ただ、現時点でこれだったら納得できますよねというのは出せないもので、12月の会議で整理するということにしたいと思います。校長先生も率直なご意見も出してくださいましたし、仰る通り人数が上がってないじゃないかと校長先生を責めるような会議ではなくて、その問題を共有して我々としてどう対処するか、市として何を協力いただくかとかそういう風に考えていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

(4) 12月までの会議の取り組みの確認ということで、この辺について事務局の方からご説明お願いしてよろしいですか。

事務局

それでは本日の会議を受けまして、春の生徒確保やこれからの取り組みに向けて吉田高校・向原高校とそれぞれと進めて参りたいと思っております。今日の会議の内容を改めて振り返ってみますと、例えば向原高校の下宿の取り組みの具体化、そこに向けて市としてまずどんな役割分担を設けていくべきであろうかという整理や、例えばそうした事業を行う上での国からの支援など有効な補助金とかそうしたものを考えていくことができないだろうか、また公共交通の話もそうでございますし、今申し上げた内容を1つずつ整理させてもらって、12月の会議では予算の状況も踏まえてまた改めて資料化させてもらって話をさせてもらいたいと思っております。以上です。

上水流委員長

ありがとうございます。最後に焦って取りまとめつつありますのでもし委員の方でもう少し聞きたいということがあればお話いただければと思うんですけど。

木村委員

バス便のことは以前の校長先生からもあったかと思いますが、結局難しいということでしょうか。そしたら、そこはないものとして考えていかないといけないですよ。難しい実情なんでしょうか。

事務局

当時、公共交通の担当として携わったことがありましたので、経験を話してもらおうと思います。1つの課題として部活動を終えた時間に帰る子供で交通手段がないと吉田高校からありました。具体的には、18時45分くらいに高校から高宮町・美土里町・甲田町方面に向けてジャンボタクシーを借り上げて走らすと。月々の金額を定めて、希望者を募って使ってもらうことにしようということで運行をさせました。結果的には利用者が少なかったというのが1番の理由です。最終的には0人になりました。1台に1人しか乗らないという状況があっても走らせなければならなくなっていたというようなこともありまして、負担もかかりますし利便性のところもあります。高校の方でもかなり積極的に活用を促していただきましたが、やはり最初の年は一定程度利用者がいても、だんだんと年々少なくなっている状況もあったというところもございました。当時から比べてまた新たなIT化が進んだり、新たな仕組みがあるのかもしれないかもしれませんが実例としてはそういったものがございました。例えば向原高校でいうと、三次市三和町の方から朝と夕方、ジャンボタクシーで甲立駅まで走らせようというような取り組みもしておりました。これも利用者の負担を幾らまで求めていこうかと。本来であれば、市と利用者として何対何で負担するかということを考えて時に、ジャ

ンボタクシーの借り上げでいうと1便当たり何千円、月にするとそれこそ5万円ぐらいの負担をお願いしなければならなくなってきた現状も出てきますので、利用者とその料金との考え方はどう整理をしていくかというのは、今の時代にあたり全国的にもおそらくいろんな事例があったりすると思いますので、そういったところは参考にさせてもらいながらまた議論させてもらいたいなと思っていますところでは。

高下委員

個別のスクールバス対応っていうのは今戸田が言った通りで、過去そういう経緯があったのでまた新たにニーズがあるということであれば、どういう方法があるかというのは個別の協議かなと。

木村委員

やっぱり教員が出てくるアイデアはそこです。でも本校の生徒数を考えたら、今言われたようにそんなにたくさん安定してずっと乗り続けるかどうか。それは経済的なお金の費用のことを考えたら成り立たないだろうなと思うところがあります。ただ私学があれだけワーストとバスでさらっていくように、もともとの母数が大きいからそれができるかもしれませんが。

中間委員

関連しているか分かりませんが、トンネルがありますよね。いつ完成するんでしょうか。完成してしまうと向原だけじゃなくて吉田も通り越して市内に行ったり、向原まで来て芸備線で市内へ行ったりとか流れが大きく変わるのかなという気がしております、当然下宿も進めていかないといけないと思っていますが単純な質問です。

高下委員

まだ工期がいつまでと言えない状態だと思っていますが、2年以内だと捉えています。来年度の事業で終える予定ですが、来年度の予算がどうなるかまだ分からないところですし、来年度で全部いければその次の年の5・6月くらいに完成する感じだと思います。ただ予算の関係があるのではっきり言えないです。もうトンネルも開通しましたので後は道路の取付だけだと思います。

木村委員

将来的なことを言えば小中学校の統合があって、遠くに住む中高生がどうやって通うのかと。バスだとするならば、それに吉田高校の生徒も乗せてもらえるのかということも出てくるので、ついでに言うとしてね。多少の費用負担はあるかもしれませんが、そしたら早便と遅便の2便くらいで、部活動がある子とない子で乗れたらとかいろいろ考えたのんですけども。

高下委員

今ちょうど安芸高田市の公共交通計画を作って、具体的にどう走らせるかを今年度検討するんですが、調べてみると今公共交通機関使っているのは高校生以下の人たちがほとんどです。スクールバスの区間はそれに乗ってる子供で、それ以外のところではどの路線も1日の平均乗車数は10人以下です。そういう意味でいくと小中高一緒の形というのがあってもいい話だなと思っています。まだ具体には固まっていないところでは。

木村委員

吉田高校でいうと安芸高田市の中心部にある学校ですので、そういうところに相乗りさせていただければ、通学については解決するかなと思います。

上水流委員長

これは当然ですが高校が最高学府という地域ですので、安芸高田市自体の活性化というのは最終的にはありますし、安芸高田市に住んでいる中学生が便利で地元に通えるっていう状況を確保していく、そういうところを確認しながら進めていければという風に思っております。

それでは12月についてはまた日程調整をさせていただきますのでよろしく願いいたします。以上で議事は終わりだと思しますので、お願いします。

事務局

いろいろとご協議いただきましてありがとうございました。次回の会議は12月ということですが、継続的に短期の取り組みのフォローでありますとか、中長期の内容の確認、そして先ほど戸田の方も申し上げましたが予算の状況等、そして今回いただきました宿題等も取りまとめながら、次回皆さんと協議をさせていただきたいという風に思っております。

改めて12月の日程については、また皆さんと調整をさせていただいて、決定したいと思います。本日はどうもありがとうございました。